



こしみず

教員住宅については無償で譲り受けられることがあります。時代の流れで選択せざるを得なかつたということが事実であります。この旨を北海道教育委員会へ伝え、施設等を譲り受けるにしる、できる限り町の負担がないよう要請していただきたいと思いますが、町長のお考うえを伺います。

よろしうじょひか。
また、町民の一人として、高校が廃校となることは非常に寂しく思います。時代の流れで選択せざるを得なかつたということが事実であります。この旨を北海道教育委員会へ伝え、施設等を譲り受けるにしる、できる限り町の負担がないよう要請していただきたいと思いますが、町長のお考うえを伺います。

答①

林 直樹 町長

株式会社モンベルとのフレンドタウンの登録に關しましては、本町の地方創生総合戦略に基づく交流人口拡大プロジェクトの一環として、観光情報の提供やプロモーション活動、本町の優れた自然環境を活かしたアウトドアスポーツの振興に対して相互間協力をを行い、観光の振興及び地域経済の活性化・自然環境の保全などを目的として取り組んでいるものであります。

ご質問にあります、モンベルと連携した今後の具体的な取り組みに関してですが、本年度における地方創生推進交付金を活用し、本町のアウトドアにおける活動プランの策定について、モンベルの協力をいたさないながら、バードウォッチングのみならず、オホーツク海や藻琴山までを含んだ本町の自然環境をフル活用し、オール小清水としてどの様な取り組みや可能性があるのか調査しておりますので、その調査結果に基づき具体的なプランが策定されることとなつ



ており、その策定された各プランに基づき、具体的な事業を実施する予定としているところであります。

この策定されるプランにより、今まで以上に観光客の入り込みが見込まれる他、町内活動ルートの設定により交流人口の拡大のみならず、本町住民の健康づくりに利活用できることや、この他にも、例えば、オホーツクの村との連携により、子ども達の自然体験学習の充実や一般市民を対象とした社会教育活動の更なる展開ができるなど、施策体系の広がりとその効果に期待を寄せております。

株式会社モンベルとの連携を契機として、今まで以上に魅力あるまちづくり施策の展開に寄与して参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願ひ申し上げます。

問②

できるようにしたいとのお話を一部聞いておりますので、浜小清水から藻琴山まで、町内外の皆さんに小清水町の自然に触れていただけるよう、色々な活動を進めていきたいと考えております。



職員住宅が建つてゐる土地については無償、建物については有償で譲り受けることと理解しております。

また、高校存続については、網走からの高校生を迎えるための支援制度など、多い時で1千300万円ほどの町費を使い、町として色々な努力をして参りました。しかし、地元の小清水高等学校に入学する生徒が少ない

ことから、時代の流れで選択せざるを得なかつたということが事実であります。この旨を北海道教育委員会へ伝え、施設等を譲り受けるにしる、できる限り町の負担がないよう要請していただきたいと思いますが、町長のお考うえを伺います。

答②

小清水町まち・ひと・しごと教育委員会ですが、その責任だ

ことになります。そつとつた意味で、跡地の利活用等、もし町が取得することになれば、全て無償になるのかどうかを含めて難しい問題もありますが、今後の農協の回答を待って、慎重に検討し努力をして参りたいと思っております。

問③

答③

モンベルとの協定による今後の町の構想について

状況としては、実際に小清水高等学校を利用した場合、どのような修繕等が必要であるのかどう事を調査しているところあります。

具体的には、閉校せずにこのまま高校として活用した場合でも、多額の修繕費用が必要です。

ところ、詳細な調査ではなく過去の設計書や目視等により、修繕費用がどのくらいかかるのか現在調査を進めているところです。いずれにしても多額の費用がかかるであろうと結果が出ており、ランニングコスト等についてある程度試算をしている状況でございます。

オホーツク農業担い手養成学校については、平成28年度は調査・準備期間として推進しているところだと思いますが、話し合い等を含めどの辺まで進みました。しかし、地元の小清水高等学校に入学する生徒が少ないとおもふのですが、高校存続に必要なことにはなりませんが、町が負担するには問題があります。いすれにしても努力をして参りたいと思っております。

また、高校存続については、網走からの高校生を迎えるための支援制度など、多い時で1千300万円ほどの町費を使い、町として色々な努力をして参りました。しかし、地元の小清水高等学校に入学する生徒が少ない

ことになります。そつとつた意味で、跡地の利活用等、もし町が取得することになれば、全て無償になるのかどうかを含めて難しい問題もありますが、今後の農協の回答を待って、慎重に検討し努力をして参りたいと思っております。

問③

オホーツク農業担い手養成学校については、平成28年度は調査・準備期間として推進しているところだと思いますが、話し合い等を含めどの辺まで進みました。しかし、地元の小清水高等学校に入学する生徒が少ないとおもふのですが、高校存続に必要なことにはなりませんが、町が負担するには問題があります。いすれにしても努力をして参りたいと思っております。

そこで、来年度以降に考えられる今後の具体策について伺います。

小清水町まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みの一つとして、交流人口の拡大を目指しバードウォッチングを起爆剤としたインバウンド受入プロジェクトを実施しているといひりますが、アウトドアブランド企業モンベルとの連携協定は小清水町の将来に向けて大きなチャンスだと考えます。



中村 俊之 議員

質問・答弁は要約されています

議会だよりは、紙面の都合により、質問・答弁の内容を要約しています。
詳細については、議会事務局へお問い合わせください。

皆さんのご意見・ご感想をお待ちしております。

■編集 / 議会報編集特別委員会
■委員長 / 橋間 善高
■副委員長 / 工藤 孝一
■委員 / 林 幸雄、森 浩、八木 勝正、中村 俊之

できるようにしたいとのお話を一部聞いておりますので、浜小清水から藻琴山まで、町内外の皆さんに小清水町の自然に触れていただけるよう、色々な活動を進めていきたいと考えております。

